

資料

山名文夫・著『体験的デザイン史』より 日本デザイン史黎明期におけるデザイナー団体について —大正期から第二次世界大戦前まで—

From “Experiential Design History” by Ayao Yamana
About Designer Organizations at the Dawn of Japanese Design History
— From the Taisho Period to Before World War II —

有山結花
Yuka Ariyama

Abstract

This paper is a compilation of information on prewar Japanese designer organizations, organized and documented using as a reference the book “Experiential Design History” by Ayao Yamana (David, Inc., 1976).

Although “Experiential Design History” is a personal memoir, the author has been active as a designer since the 1920s and has been a driving force in the Japanese graphic design world. The book is an important resource for understanding the history of prewar Japanese design, as it describes in detail, from the perspective of those involved, the period during which those who were called “designers” were recognized by the public as designers.

However, many of the introductions of design organizations are in the order recalled by the author, which is cumbersome, so they have been reorganized in chronological order for future use as research material.

はじめに

本稿は、山名文夫・著『体験的デザイン史』（ダヴィッド社/1976年）を参考文献とし、戦前の日本のデザイナー団体について整理し、資料としてまとめたものである。

『体験的デザイン史』は個人の回想録であるが、著者は1920年代から図案家として活躍し、日本のグラフィックデザイン界を牽引してきた人物である。図案家と呼ばれた人々がデザイナーとして世間に認知されるまでの時代について、当事者の目線から詳細に語られており、戦前の日本デザイン史を知るために重要な資料である。

しかしながら、デザイン団体の紹介については著者が思い出した順番での紹介も多く、煩雑であるため、研究資料として今後役立つために時系列に沿ってまとめ直した。

日本最初期のデザイン団体

大正期は商業経済の発展に伴って印刷需要が急激に高まり、“商業図案”または“印刷図案”という仕事が徐々に職業的に成り立ってきたころだった。

【七人社】

発足年：大正13年（1924年）

中心人物：杉浦非水

* 関東大震災の翌年大正13年（1924年）に、杉浦非水が留学先のヨーロッパから帰国し多数のポスターを持ち帰った。そして図案家の集まり（七人社）が発足する。

* 翌年には三越呉服店にて第1回ポスター展を開催した。

【商業美術家協会】

発足年：大正15年（1926年）

中心人物：浜田増治

メンバー：浜田増治、藤沢竜雄、多田北鳥、室田久良三

*この協会の呼びかけで、大阪、長崎、仙台、盛岡などの地方にその都市名を冠した商業美術家協会が結成された。地方団体が生まれ、全国的な協同体のような格好になった。

*東京の団体はのちに〈日本商業美術家協会〉と本部的な名に改めた。

【実用版画美術協会】

発 足 年：不明

中心人物：多田北鳥、藤沢竜雄 他

*前述の〈商業美術家協会〉から分裂した多田北鳥、藤沢竜雄らが創立。

*アーティストとプリンターの共同研究の集まりで、印刷会社の技術者が加わった。

急速に広がるデザイナー団体

昭和初年から10年ごろにかけて団体は急速に増え、全国的に20団体を越えた。

【東京広告美術協会】

発 足 年：昭和6年（1931年）

中心人物：水田利夫（日本毛織）、奥山義八、長岡逸郎（雑誌『広告界』編集部）

メンバー：上記3名に加えて田口麟三郎・平野新二（丸善）、中川巖（美津濃）、西川鋼蔵（弘法スタジオ）、水島良成（富士館）、河野鷹思（松竹キネマ）、山名文夫（資生堂）、土居川修一・大岩照世（三共）の9名が参加し、総勢12名で発足。

*“大家の集まりではなく、制作現場の第一線に立って働いている人々の団体を作る”という意図でメンバーが選出された。

【構図社】

発 足 年：昭和6年（1931年）

*製菓会社森永の広告部に勤務したデザイナーの団体。

【東京印刷美術家集団】

発 足 年：昭和7年（1932年）

中心人物：原弘

*府立工芸学校印刷科出身者の団体。

【中央図案家集団】

発 足 年：昭和10年（1935年）

*神奈川県立工業学校図案科出身者の団体。

【新図案家協会】

発 足 年：不明

中心人物：片野一男（三省堂）

*東京高等工芸出身者の団体。

【新図案家集団】

発 足 年：不明

*多摩帝国美術学校（多摩美術大学の前身）出身者の団体。

【東京包装美術協会】

発 足 年：昭和10年（1935年）

*自営作家約20名の集まりとして創立。

【資生堂広告美術研究会】

発 足 年：昭和11年（1936年）までに発足

*資生堂に勤めているデザイナーに写真家を加えた集団。

*グループの第1回展が昭和14年に銀座資生堂ギャラリーで開かれた。

*第1回展の参加者：山名文夫、森昇、山本武夫、近江匡、中谷善三郎、坪井鶴吉、渡部豁、岩本守彦、石井華一、井深徹、中島幸次、平井康雄、村林忠（当時の案内状に記載された名前順）。井深徹以下はカメラマン。

【全日本商業美術連盟】

発 足 年：昭和11年（1936年）

*初代委員長は杉浦非水

*昭和9年5月に複数団体の合同展として開催された国際交歓展をきっかけに団体間の交流が活発になった。この結びつきを一時的なものとして終わらせないために、複数団体の連合体を作る運びとなった。

*同年6月、東京の12団体が創立準備委員会を開く。翌年3月、委員会の催促で16団体の加盟が決まる。大阪からは7団体が〈西日本商美連合〉を作って参加態勢を整えた。

*昭和11年10月、22団体によって正式に連盟が成立した。

*昭和13年に〈全日本産業美術連盟〉へ改称。

【プレスアルト研究会】

発足年：昭和12年（1937年）

中心人物：脇清吉

*グラフィック・デザインの資料として各企業の広告宣伝物を収集頒布する会員組織として発足。

*昭和12年（1937年）1月15日、『プレスアルト』誌 第1集を刊行。

地方で発足したデザイン団体

〈商業美術（家）協会〉の呼びかけによって地方にも同名団体が複数できたことを前述したが、その流れとは別で昭和8年（1933年）ごろから日本各地でデザイン団体が多数発足した。

1. 商業美術連盟（大阪）

発足年：不明

2. 日本ポスター研究会（大阪）

発足年：不明

3. 大阪広告美術家協会（大阪）

発足年：不明

4. ミヤタポスター研究会（大阪）

発足年：不明

5. 神戸創作図案協会（神戸）

発足年：不明

6. 名古屋商業美術協会（名古屋）

発足年：不明

7. 長崎商業美術協会（長崎）

発足年：不明

*のちに他団体と合流して〈全九州産業美術連盟〉となる。

8. 福岡商業美術研究会

発足年：昭和11年（1936年）

*のちに〈福岡宣伝美術協会〉と改められるが、退会者があり最終的には〈福岡宣伝美術連盟〉の名で改組された。

9. 全九州産業美術連盟

発足年：昭和14年（1939年）

*〈長崎商業美術協会〉、〈熊本ポスター研究会〉、〈福岡宣伝美術連盟〉、〈北九州商業美術研究連盟〉らが前身。

*東京から杉浦非水、多田北鳥の両氏を迎え、長崎に事務所を置いた。

おわりに

日本では大正期から昭和期にかけて多くのデザイナー集団が職能団体や研究会を発足した。

しかし、デザイン史黎明期の日本ではまだ〈デザイン〉というキーワードは浸透しておらず、日本語の枠組みの中で捉えようと模索する段階であったため、団体名には“図案家”、“商業美術”、“広告美術”などの語が多用された。似た名称の団体が多い上に、団体名の改称も多く見られ、煩雑であった。今回これらを整理しまとめたことで、今後のデザイン史研究に役立てていきたい。

参考文献

山名文夫『体験的デザイン史』ダヴィッド社,1976